

公民館だより ひがしの

No. 81

2004. 3.

人口 1,824 人
(男) 894 人
(女) 930 人
世帯数 550 戸
(H16.2.1 現在)



「東野公民館だより」81号によせて――

昭和14年に建築された旧青年会館がそのままの姿で、公民館と称されたのは昭和24年。更に恵那市合併(昭和29年)後は恵那市東野公民館として集会、成人の学習に活用されました。

昭和47年からは、この公民館に公民館長が配置され、初めて公民館講座が取り入れられ、「講座生募集」とか「公民館だより」が発行された。

内容は講座の募集案内や、東野における時々々のわだい、出来事などが報じられてきた、その「公民館だより」が今回で81号、約30年間9名の公民館長が引き継いだ足跡であります。

「仕事」とはいえ、それぞれの思いの中で東野を見つめてきた人びとに僅かの文字数ではあるが当時を振り返っていただいた。

温故知新――「故(ふる)きを温(たず)ねて新しきことを知る」うへの道標となれば幸いです。

四個のリング

(元公民館長)

松本英雄 (昭和四十七年四月〜五十二年三月)

小学校の算数のテストの問題です。

「ここに四個のリングがある、これを三人の子どもに平等に分けると、一人はいくつになるか」 答えは「一個と三分の一」であります。やさしい問題です。

ところが、ある子は「二」と答えた。もちろん「×」であります。その子はテストを家に持ち帰り、お母さんに叱られる。それが現代の日常的な光景です。

だが、ある母親は、子どもにやさしく接した。お母さんは「二」でもいいと思う。でも、子どもが三人だから、三人が一個ずつリングを貰えば、リングは一個余るでしょう。その一個はどうするの……と母親が尋ねた。「お母さん、わたしもその一個をどうしようかと考えたの……で、その一個のリングは近くに住んでいる、一人ぐらしのおばあちゃんに、あげようと思ったの。でも、それを書く所がなかったの」「二」だけ書いておいたの……」 母親は、「お母さんはあなたが大好きよ」と、その子をしつかりと抱きしめてあげたという話を聞きました。

やさしい子どもです。いや、その子だけではなく、子どもはみんなやさし心を持っています。「二個と三分の一」の答えにしても、その一個のリングは大きさや、色、つや、味なども それぞれに違う、平等になるわけではない。にもかかわらず、それが公平、平等だと教えこまれて育った現代人、まことに不気味です。親が死んで遺産相続するときになつて、兄弟姉妹のけんかが始まる。そういう人達に出会うたびに、心が痛みます。

公民館は、その地域の住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化などを図るための講習会、学習会、各種集会など、住民の自主的な社会教育を行う場所と、社会教育法にあります。

多くの人に喜んで頂ける事を行う、その喜びが自分自身の喜びとなる。すばらしい処です。更なる活動を願っております。

昭和 51 年まで東野公民館



昭和 51 年まで東野公民館

東野公民館今昔追憶集

(元事務所長兼公民館長)

西尾一彦 (昭和五十二年四月〜五十六年三月)

もう二十五年近く前の公民館「思い出記」の依頼を受け字引を片手に原稿用紙に向かうことになりました。

目前に迫っている恵南地域との大型市町村合併、その後もこの東野公民館が現状のまま行政機関として又地域文化の中心として、存続できるかと、危惧しているのは、私一人ではないと思っております。

まず、お願いしたいのは、「郷土資料室」の充実整備であります。

昭和五十二年四月新築されたばかりの公民館長に新任として勤務した時、同時に旧東野村役場庁舎の廃止解体が一緒になり役場内にあった古い歴史的資料は私なりに新公民館に移転保存して来ましたが、先般の「公民館文化祭」に東野小学校から見出された貴重な資料がはじめて展示され、大変驚きました。

私も東野小学校鉄筋化から歴代校長工藤新一、吉村英祐先生達から親交をいただき仲よくしていただきましたが、こんな貴重な資料があることを初めて知りました。是非公民館に永久保存して、誰でも何時でも観れるよう善処下さるようお願いいたします。

私が事務所長兼務で赴任した頃が、丁度阿木川ダム建設が最盛期となり、東野としてもすべてが激動期にあり……時には下組生産森林組合の役員から「こんな立派な公民館が出来たのは阿木川ダムのおかげやぞ、俺達のみどり館があるで公民館なんか使やへんぞ。」こんな言葉をいただいたのも、もう時効と思いつつあえて「文」にしてみました。建設時では地区館とすれば市内はもとより東濃地方でも指折りの建物であった。

しかし今では、公民館利用のお客さんも高齢化し障害者も増えてきましたので、エレベーターができないか、そんな事を考えていたきたい時代になりました。

思えば三カ年の勤務であつたが公民館備品の選定、落成式に関り、思い出深い施設である。



昭和 53 年 5 月落成式

日々全力投球

(元事務所長兼公民館長)

前任者は西尾恒明氏(故人)であった。(西尾一彦館長以後五十七年六月まで勤務された)

千藤恵三(昭和五十七年七月～六十年三月)

当時の機構は事務所長兼館長、他事務員(男性)、管理人(当時の辞令名)として伊藤盛一氏(故人)の三名体制である。

公民館の業務等については、昭和四十八～九九年松本館長のお手伝いをしていたことを思い出しつつ対処することになった。

夜の館使用については伊藤管理人に開け閉めをやっていただいていたおり、ご苦勞な職務であったと今ながら感謝する。

新公民館となつて四年目、どうしても整理しなければならない事項(課題)に二十名の公民館運営審議委員を、市の規則どおり十名にすることであった。

五十三年の公民館建設当時のメンバーがそのまま委員となつていたためである。消防、農協、農業、郵便局等の代表の方には辞退願つた。又委員長にも従来

の振興会長の充職でなく、この方面での見識の広い市川義晴さんに承諾願つた。しかしここまで「既得権」に手を加えたことの反発はかなりのものであった。

こうして構成された新しい公運審と、書画、珍品等に関心のある人の集まり「観酔云」とが原動力となつて、この年十一月文化祭の日に合わせて東野文化祭が開催された。これは正に東野中の「宝物」の集まりであった。予想を越えた宝

物の集まりに当夜は宝物の中で寝るの番をした程だった。

この催しは好評で又、「公運審」「観酔云」の協力も得られ、近隣寺院から借り受けた「仏画展」やら「珍品、奇品展」など開催。五十九年春には、「ひなまつり」。これには当時の婦人会の皆さんにクラスミを作つていただき来館者にも

てなしたり……。たより「は講座の募集と受講申込が主目的とされ、一八号～二三号を編集。

当時の「たより」を見ると、地域農政推進協設立・婦人会活動・開館五周年記念文化祭

・保古の湖でワカサギ釣りにぎあう・松の木溜池に桜の木を植樹 など、なつかしい記事がある。

振興会長(自治連会長)は伊藤弘美さん、西尾茂芳さんと二人の方にお世話になった。

いろいろあつた二年九ヶ月任期であつた。



開館5周年記念文化祭

プレゼント

(元事務所長兼公民館長)

鈴木喜一郎(昭和六十年四月～六十二年三月)

私は昭和十六年から二十一年秋まで、中国の東北部で恵那郷開拓団員の子供として、幼少年期を過ごしました。その生活の中で一番楽しく、今もつて忘れられないのは、開拓団の収穫祭でした。異国であるだけに当然大人達の連帯と団結の姿は、子供の目にもよく理解できました。

さて昭和六十年四月に前任の千藤恵三館長との交替で、下水道課より公民館長として異動したとき、東野の地域に住む子達への想出づくり、つまり「学社連携」を公民館として進めたいと強く思いました。

運営委員長の市川義晴さんや、校長先生も含む委員の方と相談して、小中学生の方々に「郷土書道展」の参加を呼びかけました。課題は「保古の湖」「山本用水」「樹林」とかで、表彰の賞品は肩書きのある町の方々に頼み、館のロビーに(今も実施されていますが)一ヶ月間がざり発表しました。

「父母の詩」を募集し小冊として児童生徒に配りました。内容は育児での思出で病気をしたり、怪我をしたときなど父や母は……そして大きくなってくれました。と言うような中味でした。又事務所長として自治会長さん組織の協力で、東野の夏まつりとし、民謡のグループを大井町からお願いして、踊りと夜店の「夏まつり」としました。

憶えばこの東野に生れ幼少年期を過ごし、やがて社会人としてこの地を離れて行くわけですが、子供達の心の原点、基盤はこの町、この時代にあると思いますし、行事によつて大人社会の連帯もより深まると思われます。

「住民運動会」「夏まつり」「蛍の里」「魚すき」「文化祭」「歌舞伎」「音楽祭」などなど……ふれあいの場を、それぞれ組織の大人達がつくり上げることは、東野に住む自分達自身への賛歌であり、プレゼントではないでしょうか。



郷土書道展を行いました

うすれゆく郷土意識を甦めたいと小中学生を対象として「ふるさと」とか「山本用水」とかを課題として小学生五十八人、中学生八十八人の皆さんと学校の協力で、開くことができました。公民館ロビーに一月二十日から約一ヶ月展示し多くの方々に見ていただきました。

教育長賞に 千藤さん

恵那市東野公民館で、小中学生の「郷土書道展」が二十日から開かれ好評を博しています。ふるさとへの気持ちを深めようと東野青少年育成財団(財団)が主催する「郷土書道展」をテーマに催した初の書道大会。地域の小、中学生二百十人が参加。田代立川、大野忠志さんの指導で、教育長賞に千藤恵三さん(中学三年生)が選ばれたが、いずれも心

東野音頭の復活

(元事務所長兼公民館長)

西尾忠夫(昭和六十三年四月〜平成元年三月)

私が公民館にお世話になった昭和六十三年当時、公民館長会議が開催される度に、「中野方音頭」の話で持ち切りでした。

東野地区にも「東野音頭」があり原作者もみえるということで「東野音頭」復活の声が掛かりました。原作者の市川広利先生と相談し東野音頭の復活に乗り出しました。

最初歌の吹き込みから始めました。

当時の東野小学校校長西尾嘉夫氏の御協力により、歌の練習は専ら小学校の音楽室でした。西尾校長と相談した結果東野夏祭りを盛大にするためには小学生に踊りを教え祭りに参加してもらえば参加者も多くなり祭りも盛大になると思い実行に移りました。夏祭も小学生の参加と伊藤公博さんの指導により生演奏のもと多くの人が加わり開催することが出来大成功でした。

「東野音頭」の復活により夏祭りは現在も盛大に行われております。

「東野音頭」及び夏祭りが盛大になりました。晩には次の方々の御協力の賜でございます。色々ありがとうございます。

御協力していただいた方々は次のとおりです。

原作者 市川広利さん (大井町東野出身)
総括者 西尾嘉夫さん (東野小学校長)

歌手 故伊藤公博さん (北天王前)
松浦弘さん (南中切)

踊り指導 伊藤雅代さん (下辻)
丸山公昭さん (下大門)

西尾勝資さん (宮の前)
神谷正枝さん (上大門)

吉村千勢子さん (下浜井場)
田口美智子さん (下浜井場)

伴奏者 故林 俊幸さん (下大門)
市川孝道さん (上大門)

三宅智子さん (北万場)
鈴木みゆきさん (向島)



九年間の思い出

(元公民館長)

松本広英(平成元年四月〜同年三月)

平成元年の四月から公民館に勤めさせていただきました。それまで公民館という所にあまり縁がなかったもので、内心とても心配でありました。そこで、まず、「東野を知る」ということと、楽しくて形に残る行事を始めてみようと思いました。しかし、具体的には、どう進めて行けば良いのかわかりません。

例えば文化祭では、一、文化祭では何をしたらいいでしょうか。二、予算がありませんがどうしたらいいでしょうか。こんな会議からの出発でした。それでも、委員さんや各種団体の方々が何度も打ち合わせを繰り返し、協力者の呼びかけ、参加者の募集、準備、当日の運営、片付けなど一生懸命になって下さり、また、市の教育委員会でも「出来るだけのことは応援するから」と後押しして下さいました。お陰で多くの方に楽しんでいただけた文化祭になりました。多くの方の力が集まって一つの行事が出来上がることは、本当にありがたいことだと思いました。

公民館の研修で飛騨高山の観光ガイドをされている方の講演を拝聴させていただいたことがあります。「豪華絢爛な祭り屋台が曳き揃う高山祭を支えているのは、各地域の方たちの力なんです。」ということでした。同じような祭りに浜松の風祭があります。昼間は海岸で大風があたり、夜は各町ごとに祭屋台が繰り出され、市街を何十台もの祭屋台が曳き回されます。私も一度、ある町の屋台曳きに飛び入り参加をしたことがあります。夕方になるとヨチヨチ歩きの小さな子供から年配の方まで捻り鉢巻にハッピー姿、まつりスタイルでさつそうと出かけていくのです。町全体が祭り一色に染まります。難しい理屈や損得勘定抜きとにかく楽しめます。祭り心のある町は素晴らしい。感動しました。

東野には、大きなお祭りはありませんが、一つひとつの行事を通して東野にも高山や浜松の人たちに負けない「熱い心」「温かい心」があると、感じることで九年間でした。多くの方とふれあいを深めることができ、いろいろと教えていただいたことは、貴重な経験となりました。今でも心から感謝しております。



東野公民館四年間を勤めての想い

(元公民館長) 伊藤 明 (平成十年4月〜同十四年三月)

◎公民館は、すばらしい・愉快な想いでした。

△当然、いやな思いもすることも若干ありました。

◎四十五年ぶりに東野の住民となつて、普通なら浦島太郎的で東野に生まれ、育ちながら、その土地知らずの閉じ込め人間で終わってしまうところでしたが、お蔭で東野の一部を知ることができたり、愛着が持てるようになりました。

◎利用者の人たちの人生を楽しもうとしたり、趣味を生かそうとしたり、学ぼうとする前向きな姿勢に感動したものでした。

印象に残った人々

- ・来館後、あいさつをして帰路につく人
- ・何かいい情報を提供してくれる人。
- ・トイレのスリッパの乱れをそろえておく人
- ・公民館運営審議委員として、積極的に協力・支援・助言をおしまなかった人
- ・貴重な物品・書籍・歴史的価値のあるもの・電気用品や寄付などをしてくださった人。

- ・後片づけを整然と見事にやつてのける消防団員
- ・先生の指導もあるでしょうが、元気のよいあいさつ・はきものをきちんと脱いで美しくそれえて入館するのは幼稚園の子どもたち
- ・行事をする時、手際の良い協力ぶりを示す多くの人たち
- ・忍者作戦が展開された時、作戦仕掛けの人の情熱と協調をはじめ、子供たちのために、子ども以上に目を輝かせて参加してくださった大変多くの人たち
- ・東野が動いた日―となっていました。

△違和感や不愉快な思いをしたのは少なかつたですが…

- ・トイレ (大便) 利用のあと、水洗をしないで放置してある場合
- ・トイレのスリッパを乱雑に脱いである時
- ・使用申請書を記入しないで、すまそうとする団体
- ・夜十時過ぎても、使用される場合

□広い駐車場を持った公民館 ・部屋も多くを有した公民館

- ・人と人との交流を待っている公民館
- ・たとえ、合併しても、地域コミュニティとして不滅の公民館
- ・そんな東野公民館に、四年間も勤務させていただいた幸せを感じています。



日々に新たに

千藤恵三 (平成十四年四月〜)

伊藤明館長が退任されるということで後任のお話をいただいた、しかし、私でよいのか迷いつつ、無智無能を省みず教育委員会からの辞令を受ける。思えば二十年ぶりの職場である、建物内部は当時と変わっていない、新しいものではパソコンなるものが設置され、講座の申込などはどこからでも、同時に申込ができ、時には地区館間の連絡等がメールという手段で打ち込まれている、そこには対話はなく、味気ないものである、これがIT時代というものらしい。

この公民館だよりも平成十四年度 (72号) からパソコンによって手づくりで編集される。六十の手習い、勝野主事との共同作品である。

施設は二十年前と変わらず、トイレ、冷暖房施設、改修を要する。トイレ改修は、平成十五年度の予算でやつと改修工事が進められている、次は二階への昇降施設が必要であるが…。

二十年前には休止中であつた歌舞伎が数年前から復活し年一回公演される、保存会役員の熱意には感服する、充分ではないが職務上お手伝いすることに。平成十四年度から学校の完全週五日制ということで、土、日開館、月曜休館という運営となつた、土、日曜日の子供の居場所づくりに工夫はするが現実には中々名案が浮かばない、それでもなんとか、アヒルの水かきのごとく。生涯教育といわれる公民館講座、残念なことに東野の方の参加が少ない、まだまだ工夫を要する。

十五年度から今までの公民館運営委員会に変わつて「公民館協力委員会」を立ち上げていただいた、文化祭、地域づくりなど協力、助言、提言もいただける。定蓮寺川でのホタルまつり、東野の名所となつた、東雲会、青少年育成会等地域が一体となつて取り組むイベントである。

開かれた公民館、使いやすい公民館を心がけて、同時に利用者には規則を守って頂くようお願いしなければならぬ、規則は公平を期すための最低限のルールであるがゆえ、筋をこらうせ角が立つ、それでも、理解願わねばならぬ。さわやかな方々に出会えるのも楽しい、声をかけて出入りする方、四方山話に立ち寄つてくださる人、様々な人に出会える公民館―。

産業遺産の「風穴」を整備
恵那市東野 住民が案内板設置へ



一 小中学生の書初め展

——青少年育成会議主催

第一回は昭和六一年です、当時は

「ふるさと」「山本用水」など書かれていた。

今回で十六回目、今年は久し振りに

東野に因んだ熟語——一年生「ほたる」、

二年生「ふるさと」、三年生「米つくり」、

四年生「山本用水」、五年生「保古の湖」、

六年生「東野の自然」を課題としてお願い

しました。

中学生は四文字熟語によりそれぞれの

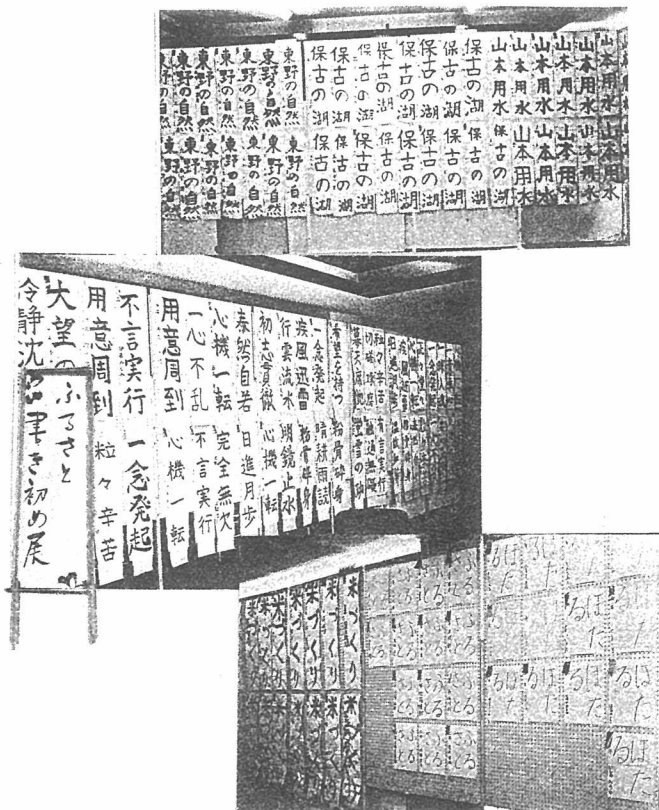
決意を秘め「温故知新」、「心機一転」、

「粉骨碎身」等力強く書かれていた。

審査の結果、最も優れた作品に贈られる

教育長賞には恵那東中三年の伊藤秀典さん

に決まり、学年別入賞者は下記の皆さんでした。



学年	金賞	銀賞	銅賞	みどり賞
小学 1年	西尾 美知花	鈴木 翔太 西尾 太一	足立 恵美 伊藤 紗希 長谷川 咲	小木曾 圭太 堀江 亮汰 千藤 花奈 永谷 恵
2年	足立 紗穂	千藤 友里絵 長谷川 彩	金子 瞭 渡邊 混介 千藤 麻由	大島 勇気 加藤 優弥 渡邊 幹久 伊藤 来夢 土方 優奈
3年	松本 大雄	西尾 聡 三浦 安里沙	足立 知美 鈴木 春菜 田口 愛子	足立 雅規 伊藤 太一 山田 悦弘 藤井 里歩 吉村 美咲
4年	小木曾 加奈	松本 真英 井戸 千恵子	伊佐地 將 土方 翔太 足立 成美 千藤 美沙	伊藤 優 渡邊 貴史
5年	伊藤 祐太	永谷 岳彦 西尾 幸子	渡邊 優太 西尾 ちひろ	西尾 典晃 薄田 麻帆 千藤 風羽音 光岡 麻衣
6年	足立 里穂	西尾 太志 三宅 真央	足立 大起 伊藤 光一 伊藤 澄香	千藤 卓也 長谷川 諒 千藤 菜穂 長谷川 瑠衣



東野クリーンセンター（処理施設）

二 農業集落排水事業

——三月七日より（一部を残し）供用開始

平成六年より事業の説明及び意向調査に始

まり、対策委員会、準備委員会、そして十二年

四月からは事業の起工に伴い、組織も「東野地

区農業集落排水管理組合」（組合長篠原佳昭）

として発足した。

この間、代々の役員の皆さまには事業化に向

けての説明会、事業に係わる諸問題の対応に当

たられ、今日の完成をみる事ができたこと

ご苦労に感謝申し上げます。

残る地域（浜井場、中辻、宮の前、天王前の

一部）については十六年度内で完成する予定で

あり、これにより計画地域（白坂、小野川を除

く）全域で供用開始となる。

この事業により各家庭における「快適な環境、

ばかりでなく河川の水質保全にも大きな役割を

果たすものであります。

三 公民館どのようにしてできたの？

(公民館見学)

六年生の社会科の教科に「私達の生活と政治」の学習があります。

身近な公民館建設までの流れを学習しました。

Q どのようにして建設することを決めたの？

a 「新しい公民館がほしい」地域の願いがあった。

Q (建設は)どのようにして決まったの？

a ① (東野の) 代表が東野全体の願いであることを恵那市長 (市役所) に言う (要望)。

② 恵那市長 本当に必要なか

恵那市全体として適当か

予算 (お金) はどうか、国、県

の補助金の見込みは

建設の用地は大丈夫か

(全てが充たされる) — 議会に提案

③ 議会は 市長の考えを「審議」「議決」する。

Q 建設のお金はどうしたの、補助金をもらったの？

a 恵那市の施設 (公共施設) なので、建設費の一部を国、県から補助金をもらい恵那市が建設した。東野へは補助金はきません。

よその地区公民館とくらべて大きく造られており、その部分だけ東野で負担しました。

Q 土地は誰のものでしたか？

a 元の支所役場と個人の家、他農地がありました。

Q この人たちの協力のあったおかげです。

a どうして木で造らなかったの？

木造ではこんな大きな建物は難しいし、建設費も高くなるからです。

四 東野における (明治、大正、昭和年代)

生活用具展

その昔、日常生活、物の

生産手段、数少ない娯楽な

どに使われていた用具類を

借りての用具展、懐かしい

品々が約四〇点借りられま

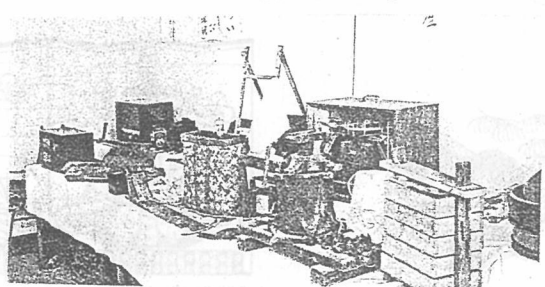
した。

「これ何に使うの？」

子ども達。中年のおば

あさん「そういえばこん

なの使ったことある」。



五 切り絵展

(千藤重明さんの作品)

白と黒とのバランスで立体感、季節感を、柔らかな曲線で躍動感、優しさを表す切り絵。

今回の展示で「あの人にこんなすごい技が

驚きと感服の切り絵展

切り絵は「切り紙絵」と呼ば

れ、カッターナイフを使う

「切り抜き」、正方形の紙を重

ね折りしてはさみで切る「紋

切り」などがあり、日本には

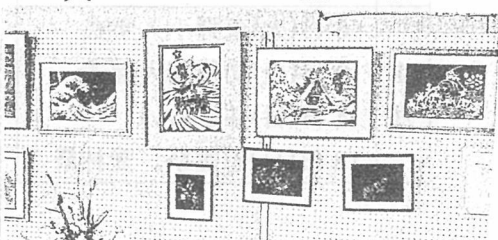
奈良時代に中国から伝わり

祭祀に用いられたという。

江戸時代には役者の似顔を

切り抜く大道芸人も現れ人気

を呼んだといわれる。



文芸欄

サークル短歌

鈴木喜一郎

・ マネキンのようなる人が工事中と

旗振りており上げて下ろして

・ 乳色に雪おりて来るありし日の

ごとくに唇を大きく開ける

市川茂子

・ 唯一人広い砂漠を歩くようと

亡父の言葉をつくづく思う

・ 吹雪の日不安ますます深まりて

独りで居れば犬に優しく

赤尾袈夫

・ 岩村の城址を巡る隠れみち

朴の葉敷きて石垣の在り

・ 梢吹く風の強さを窓にみつ

春の旅程をメモ書しおり

花無山句会

鈴木抱風子

如月の越冬鶴細身小走りに

蛭汁百寿祝賀の祝い膳

来年も作るつもりよ種を取る

年金の細き暮らしや鏡餅

福寿草殖やし殖やして黄泉の国

ポケットに寒さを握るこぶしあり

冴え返る流れる読経墓普請

万両や花なき庭に灯す紅

姫の名の八重咲き椿花終る

子等帰りおはじき二つ初座敷

雪やんで掃く夕方や日脚伸ぶ

春ごたつ変わらぬ話くり返し

千藤恵三

変更場合があります。

確認して使用申込をして下さい。

休館日

2004年度カレンダー

4月

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

29日=みどりの日

5月

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

3日=憲法記念日、4日=国民の休日

5日=こどもの日

6月

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

おねがい

中山道ひし屋資料館では

6月15日～7月11日まで

「家と里のおしえ—東野地区に残る書」の展示会が行われます。

皆様のご先祖様、郷土の先覚者、先生等の書いた、例えば、ことわざ、格言、家訓、名言等で姿は掛軸、屏風、巻物、短冊などです。

お借りするに当たって、事前に掌握したいので、4月末までに下記にご連絡、又は問合せ下さい。

恵那市教育委員会社会教育課

文化係 26-2111(内線 322)

東野公民館 26-2555

すくすくクラブよりお知らせ

3月で今年度のすくすくクラブも終わりとなります。子どもさん達もこの1年でずいぶん大きくなりました。

そこで4月からの学級生を募集します。0歳から入園前の子をもつ保護者が対象です。

春の遠足、東野幼稚園訪問、七夕かざりづくり、健康講座など年間12回開催予定です。開催日は第4金曜日、午前10時からです。

詳しくは恵那市広報3月15日号をご覧ください。

楽しく学習して友達づくりをする会です。ご参加お待ちしております。



東野の行事予定

3月	6日(土)農集通水式
	23日(火)幼稚園卒園式
	25日(木)東野小卒業式
4月	6日(火)東野小入学式
	9日(金)幼稚園入園式
	4日(日)井ざらい 18日(日)慰霊祭。愛林祭

あとがき

○ 今回81号 過去の公民館長に想い出の記述をお願いしたところ九代七名の想い出記が揃った。だれもが「地域の教育、文化に関する事業を行い...生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する...」(社会教育法) べく携わった人達です。

他にも、今は故人となられた三代目館長の西尾恒明さん、五十三年から平成元年まで、館の管理を願った伊藤盛一さん、公民館に尽くしていただいた方々が思い出される、ご冥福を祈ります。

○ 今号に「振興会だより」が添付されました、東野振興会はこんなことしている、こんなことを考えている—振興会発行の情報紙です。

○ 各種の情報紙がある、その中で最近のある紙に「賓主互換(ひんじゅごかん)」というお話があった...茶道の言葉で「亭主と客が互いを思いやり、もてなし合う」意味だそうです。同じ紙面に「お茶の心」を持たぬことを「無茶」と言う...とか?...これはどうもジョークと考える。

無茶とは—筋道の立たないさま。道理や、常識を顧みないさま—のようで...
賓主互換—茶の心得は無くても心したい熟語である。

館を使われる方(借りる)、使っていただく側(貸す)相互の思いやりを大切にしなければ...対照語に賓主歴然が。

(館長)